
平成 28 年

4 月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

多様な担い手づくり

西濃農林■新規就農者 岐阜県就農支援センター入所式、第1回 西濃地域(海津)就農支援会議

西濃管内では新規就農者に対する支援活動が活発に行われている。

海津市においては4月11日に、県就農支援センター(海津市)で、冬春トマト研修生第3期生4名の入所式が開催された。式の後、第1回目の就農支援会議が行われ、農業普及課を含め、関係機関と連携し、研修生の現在の状況から、次年度の就農に向けて、課題・問題点を解決しつつ、支援を進めていくことが確認された。

また、大垣市では4月12日に、新規就農をめざす研修希望者(男性:30歳)と、研修受け入れ事業者に対し、大垣市、農業振興課、農業普及課とで打ち合わせを行った。

研修希望者は、「名水わさび」にて秋から研修に入り、将来は大垣市内で就農を希望しているため、各種支援事業のスケジュール等について調整を行った。今後、研修希望者本人と受け入れ研修先の「名水わさび」に対し、あすなる農業塾や青年就農給付金等、関連の事業手続を進めて行く予定である。



【入所式：激励のことば】

中濃農林■JAめぐみの就農塾 就農塾開講式

4月13日、中濃地域におけるさといも・夏秋ナス・夏秋トマトの新たな担い手を育てる就農塾の開講式(第1回就農塾)が行われた。今年度の受講生は11名で、ほ場実習や座学、生産者交流会などを行い、それぞれの専攻作物の栽培方法などについて学ぶ予定としている。

開講式に引き続いて行われた第1回就農塾では、さといも・夏秋ナス・夏秋トマトの3コースに分かれて、農業普及課から栽培概要や経営試算などについて説明した。受講生からは、積極的に多くの質問が出された。

農業普及課では、一年を通じて就農塾講師として、スムーズに就農できるよう支援していく。



【開講式の様子】

郡上農林■新規就農者の育成 郡上トマトの学校開所式

4月5日、JAめぐみの夏秋トマト新規就農者研修施設「郡上トマトの学校」の開所式が、郡上市長、県農政部長など多くの来賓が出席して盛大に開催され、研修生2名の決意表明等が行われた。2年間で栽培技術を習得した後、市内のトマト生産者として就農する予定である。

研修生は4月27日に開催された地元夏秋トマト部会全体研修会にも参加して、地元生産者との交流が図られた。

農業普及課では、これまで研修事業のプロジェクトチームの一員として企画会議に参画してきた。今年度は地元生産者との交流など就農に向けた準備や2期生の募集等も支援していく。



【決意表明の様子】

可茂農林■可茂地区指導農業士会 平成28年度総会を開催

可茂地区指導農業士会は、平成28年度総会を4月20日にシティホテル美濃加茂で開催した。本年度は富加町と白川町から推薦があった新たな会員が加わり、11名の体制でスタートする。

佐伯会長(白川町)からは、本年度は農業担い手サミットが岐阜県で開催され、可茂地区に

も県外から80名の仲間が訪れることから、交流を深めつつも今後の地域農業の発展に繋がるような大会にしたいと述べた。

農業普及課も、サミットをきっかけとして地域づくりが加速化するよう、指導農業士会と連携してサミットの支援を行う。



【あいさつする佐伯会長】

東濃農林 ■ 瑞浪市日吉町 集落営農組織化について検討会を開催

瑞浪市日吉町深沢地区において、4月20日に集落営農システム検討委員会を開催した。昨年度に引き続き、本年度も集落営農確立サポート事業の重点指導地区に選定される見込みで、1～2年後の組織設立に向けて検討が進められている。

今回の検討委員会では、今年3月に実施した集落営農に関するアンケート調査の結果について検討した。

今後5年くらいで農業が続けられなくなると答えた方が多く、また、深沢地区にあった集落営農組織をつくることに関しては5割以上の方が賛成となった。アンケート回答率も9割以上と高く、集落全体で今後の農業について前向きに検討していく姿勢が見られた。

今回のアンケート調査結果を踏まえ、今年度は、集落営農組織の形態や設立時期について検討することとしており、農業普及課では引き続き支援を行っていく。



【検討委員会の様子】

飛騨農林 ■ 担い手 経営改善と地域発展への尽力が認められる ～大西洋介さん中日農業賞受賞～

3月26日に名古屋市の中日パレスで、第75回中日農業賞の贈呈式が開催され、高山市上宝町の大西洋介氏が優秀賞を受賞された。大西氏は地域の若手農業者のリーダーとして、山間積雪地帯において夏秋トマト、パプリカ、菌床シイタケの組み合わせで周年栽培体系を実現するとともに、外国人研修生を受け入れて法人化し経営確立したこと、就農希望者への支援に力を尽くしたこと、高原野菜組合特産部会長として定年帰農者や女性の就農を進めるため、栽培しやすいスナップエンドウや小菊カボチャを導入したことが評価された。

「若い人だけでなく高齢者も新たな農業者として産業として成り立つ農業にしたい！」と志高くチャレンジしていく姿勢である。

農業普及課では、推薦書の作成や現地審査時の対応等の支援を行った。



【表彰を受ける大西氏】

農業経営課 ■ 肉用牛 若手就農者への支援活動

中濃地域において経営を継承、あるいは新たな部門で経営に参画してから日の浅い若手肉用牛経営者に対し、農業革新支援専門員は、現地で子牛への飼料給与や牧草地の肥培管理などに関する技術指導を行っている。

日々の業務の中で生じる家畜管理上の課題や疑問点を自主的に解決できるよう助言等を行いながら、関係機関とも連携し支援活動を継続していく。



【飼養管理指導】

売れるブランドづくり

岐阜農林■えだまめ 各地区で栽培研修会を開催

J A ぎふえだまめ部会は、4月11日から26日にかけて、6地区において、栽培研修会を開催した。

農業普及課からは、農薬登録情報や土づくりの重要性、緑肥栽培の注意点などを紹介するとともに、出荷の平準化、病害虫管理策の徹底などの指導を行った。また、G A Pの取り組みを推進するため、農薬事故や異物混入の防止に向けた2種類の啓発資料を作成し、配布した。参加した生産者からは、土づくりの重要性が理解できたなどの発言があった。

今後、農業普及課では、品質管理の徹底と安定生産に向け、栽培研修会等で技術情報を提供していく予定である。



【栽培研修会の様子】

揖斐農林■茶 品評会出品茶を手摘み！～1心2葉、心を合わせて～

第69回関西茶業振興大会における上位入賞に向けて、揖斐川町の桂の現地茶園において、生産組合、農業普及課、農業技術センター、揖斐川町役場、いび川農協により、3月から2回の現地検討会を行い、生育状況や管理状況の確認、今後の圃場管理、作業工程を協議・検討してきた。そして4月26日、組合員、関係機関職員約100名が、上位入賞に向けて芽の大きさ・形を揃えるため一芽一芽手で折り摘みを行い、約40kg3点分の新芽を1心2葉で摘み採った。摘み採られた生葉は即、加工施設に持ち込まれ、研修を兼ねた加工が行われた。1点の加工に8時間以上を要したが、それぞれ満足のいく出来栄えとなった。

農業普及課は、当日の手摘み指導、現場の進行管理等を行った。

池田町でも4月25日に、美濃西部製茶組合の新茶の初摘みと池田町茶業振興会の「お茶まつり」を兼ねて、品評会用出品茶の手摘みが行われた。



【写真左：揖斐川町の手摘み、写真中：加工された茶葉、写真右：池田町の手摘みの風景】

恵那農林■三郷米麦採種生産組合 「創立50周年記念大会」が開催される

恵那市の三郷米麦採種生産組合では、長年の優良種子生産の実績を記念し、4月22日に恵那峡グランドホテルにおいて「創立50周年記念大会」を開催した。

当日は、組合員、(一社)岐阜県米麦改良協会、恵那市、J A ひがしみの等、関係機関約70名が出席した中、農林事務所長からは知事感謝状を贈呈し、種子生産の長年の尽力に謝意を表した。

農業普及課では、今後も優良種子の確保に向け、現地研修会、ほ場審査等を通じた生産技術指導、担い手の育成による生産体制維持への支援を継続する。



【記念大会の様子】

下呂農林■エゴマ 種まき講習会を開催

4月21日、下呂市小坂町において、エゴマの種まき講習会が開催され、地域住民13名が参加した。

農業普及課では、省力化を図るとともに機械化にも対応できる栽培技術として、セルトレイ等を使用した種まき、育苗方法について実演を交えて講習を行った。また、参加者にも作業を体験してもらい、技術の普及を図った。

今後は移植時期と収穫時期に合わせて講習会を予定しており、生産振興と省力栽培技術の普及に向けて関係機関と連携し支援を行ってゆく。



【種まき体験】